

## SES（社会経済的地位）と保健行動

### 一般高齢者調査の結果から(1)

平井寛\*，近藤克則\*\*，吉井清子\*\*，松田亮三\*\*\*

\*日本福祉大学 COE 推進室 \*\*日本福祉大学社会福祉学部 \*\*\*立命館大学産業社会学部

キーワード：社会経済的地位，保健行動

#### 【目的】

SES と健康の関連については、欧米を中心に多くの研究が行われており、SES が低いほど健康状態が悪く、その一因として保健行動が関与することが報告されている。日本においても低所得層で要介護者の割合が多いことを報告した。本研究は、日本の地域在住高齢者において、SES と保健行動の関連を探ることを目的とした。

#### 【方法】

2 自治体に居住する要介護認定を受けていない 65 歳以上の一般高齢者全員を対象に、日常生活に関する調査を実施した。回答者数は 5,799 人(女 57.2%、平均年齢 74.4 歳(SD6.1))、回収率 52.7%であった。保健行動として、喫煙、飲酒、一日の歩行時間、検診受診を用いた。年齢は 65-69 歳、70-74 歳、75-79 歳、80-84 歳、85 歳以上の 5 段階に分けた。SES 指標として、教育年数〔6 年未満(n=370)、6~9 年(n=2,855)、10~12 年(n=1,982)、13 年以上(n=469)〕と世帯年収〔低所得群-200 万未満(n=1,652)、中所得群-200~400 万(n=1,627)、高所得群-400 万以上(n=1,228)〕を用いた。SES と保健行動の関連については、一般線形モデルで年齢を調整し、男女別に解析を行った。

#### 【結果】

1)年齢の影響(a)年齢と SES：男女とも年齢が高いほど学歴や所得が低かった。(b)年齢と保健行動：喫煙者、飲酒者、歩行時間、検診未受診者の割合は年齢と共に減少した。2)年齢調整一般線形モデル(a)学歴と保健行動：男性では喫煙、飲酒とも関連がみられなかった。一日の歩行時間が 30 分未満の者は、教育年数 6 年未満群の 52.9%に対し 13 年以上群で 43.0%、検診未受診者はそれぞれ 39.0%に対し 16.8%と、学歴と有意な負の関連を示していた。女性では飲酒、歩行時間に関連が見られなかったが、喫煙者割合は、教育 6 年未満で 3.7%、13 年以上で 0.9%であり、検診未受診者は 39.0%と 16.8%とやはり負の関連であった。(b)所得と保健行動：男女とも喫煙、飲酒と所得との関連は見られなかった。所得と有意に関連していたのは歩行時間と検診であり、男性では歩行時間 30 分未満の者が低所得群で 44.6%、高所得群で 38.5%、検診未受診者は、それぞれ 33.2%と 17.9%であった。女性ではそれぞれ 44.2%に対し 40.6%、29.1%に対し 19.6%であった。

#### 【結論】

歩行時間、検診受診率は SES 低位で有意に低かった。しかし、喫煙・飲酒と所得・学歴との間には、女性の低学歴と喫煙率の関連を除き有意な関連が見られなかった。これは、SES 低位で喫煙、飲酒が増えるとする欧米の研究結果とは異なる。

本研究は 21 世紀 COE プログラムの助成を受けた研究の一部である。